

# 「やみぐも」

はせ ひろいぢ

## ◆登場人物◆

田口 光彦 (片し屋本舗の元社長)

田口 麻衣子 (光彦の妻)

ユンスジョン (片し屋本舗の従業員)

久保山 仁 (片し屋本舗の従業員)

島田 三咲 (雑誌社の女性ライター)

友部 裕子 (フリーのカメラマン)

愛庭 光次郎 (愛庭探偵事務所の所長)

東群 しのぶ (愛庭の助手)

亜子 (謎の少女)

## 【SCENE / 1】

夏のとある倉庫。薄く光が差し込んでい  
るその空間は、幾ばくかの抽象性をはらみながらも、あくまで室内  
であり、決して新しくはない様相。古びた家電製品や材木などが、  
壁際もしくは部屋の一角に無造作に集められているが、他は実にあ  
っけらかんと無駄な空間が広がっている。ポツンと置かれた事務机  
に向かい伝票の処理をしている田口麻衣子。少し離れて床に寝そべ  
っている亜子は、鉛筆を持って何やら雑誌に向かってい。ふと思  
い出し笑いを始める麻衣子。亜子は絡まない。

田口麻衣子 … (笑いながら) そりゃサファリだつつかうの。

亜子 何?

麻衣子 ああ、昔ね、まだ和也が小さいとき、ほら、あの「富士サファリパー  
ク」の事をね、ずっと「さわりパーク」って呼んでたのね。

亜子 へえ。

麻衣子 あと、テレビの事故のニュースを聞き間違えて…

亜子 そりゃ毛ガニじゃねえ! つつかうの。

麻衣子 ……

亜子 あ……

麻衣子 読むなって、先を。

亜子 …ごめん。

麻衣子 ま、いいけどさ。

作業に戻る麻衣子。雑誌に戻る亜子。暫しの間。

亜子 ねえ、おばちゃん。

麻衣子 おばちゃん言うな。

亜子 麻衣子さん。

麻衣子 なんてしよう。

亜子 縦のカギ④。

麻衣子 えっ?

亜子 「絹もしくはちりめんできて出来た小型のふろしき」

麻衣子 ああ、何文字?

亜子 3文字。最後が「さ」……もぐさ?

麻衣子 えっと……ああ「ふくさ」ね。

亜子 ふくさ? 何それ?

麻衣子 だから小型のふろしき。

亜子 そうじゃなくて…

麻衣子 現金を包むのね、祝儀や香典を。葬儀の時とかに…

亜子 ふーん…

麻衣子 ……つて、身内には使わないか…

亜子 それは良くないよ。

麻衣子 えっ?

亜子 悪い望みは、叶うパワーが強いんだ。希望的な願いの倍近く。だからこ  
の世は…あ。

麻衣子 …だから読むなって。

亜子 うん…ごめん。

麻衣子 …ま、いいけどさ。

亜子 …でもアンタ…

麻衣子 冗談冗談。ほら、よく言うでしょ、明日は明日の風が？

亜子 吹くさ。

麻衣子 (微笑んで) そういうコト。

亜子 や、でも…あ、やべ。

麻衣子 えっ？

何かの気配を感じて、本もそのままに足早に立ち去る亜子。違う側から両手に荷物を抱え、ユン・スジョンがやってきた。

ユン・スジョン ただいま戻りました。

麻衣子 お帰り。…あれ？ 一人？

スジョン ああ、いえ、仁さんは先に戦利品預けてくるって。

麻衣子 ああ、巴屋さん？

スジョン ええ。お昼いらさないそうです。

麻衣子 そう。

抱えたガラクタを、山積み場所に置き軽く分類するスジョン。

麻衣子 どう？ 少しは慣れた？

スジョン ああ、ええお陰さまで。今日は軽かったですし。

麻衣子 加屋町だっけ？

スジョン いえ、それは社長さんです。私たちの方は小奇麗にしてる独居老人

で、事件性もなく、早い発見だったんで。

麻衣子 …また付いていってるんだよねえ、和也。

スジョン ああ、社長の方？

麻衣子 変質者に育ったらどうしてくれるのさってね。

スジョン はあ…

麻衣子 ホントに甘いつて言うか、言うなりつて言うか。「何事も経験」って言葉で全部片付けてさ。んで結局のところ子供の点数稼いで、その分相対的に私の点数が低くなってもフォローもないのね。

スジョン はあ…

麻衣子 子供の点数より他に稼ぐモンがあるだろうって…何？

スジョン えっ？

麻衣子 何か変、私？

スジョン あ、いえ…

麻衣子 …あ、点数点数つてくどかった？

スジョン いえいえ。

麻衣子 そう？…

スジョン ……

麻衣子 ……

スジョン …ほら、でもやっぱ夏休みだし、和也君…

麻衣子 ……

スジョン ……

麻衣子 …ああ…

スジョン …ええ…

麻衣子 …確かに何処にも連れて行ってやれないしねえ…

スジョン (少しほっとして) ええ…

麻衣子 少年野球もやらせてやれなかったしねえ…

スジョン 大丈夫ですよ。

麻衣子 えっ？

スジョン 和也君は優しい子ですよ。この前も仁さんに読経の挙げ方習ってたし、私にも時々劳いの言葉掛けてくれるし。

麻衣子 そう？

スジョン ええ…

麻衣子 そう？

スジョン …(雑誌に絡んで) あれ？ これ奥さんのですか？

麻衣子 えっ？ ああ、ううん。多分遺品に紛れてたんじやないかなあ…

スジョン ならいいんですけど…

麻衣子 え、何？

スジョン ああ、いえ、実は私の友達がはまって…最近、この手の専門雑誌

が軒並み発刊されてるらしいんですね。

麻衣子 へえ…

スジョン 近々懸賞金付きのものも出るって…

麻衣子 え、何？ 私の小遣い稼ぎだと思ったの？

スジョン ああ、いえいえ：私には全然こういう趣味がないので、聞いてみたんですね？ 何でわざわざ貴重な自分の時間を、そんなパズルなんかで費やすのって。

麻衣子 ああ、うん。

スジョン 何て言ったと思います？

麻衣子 や、知らないけど：知識欲とか、達成感とか？

スジョン 空しさなんですって。

麻衣子 えっ？

スジョン 完成した後の空しさ。時間を無駄に浪費した空虚な気持ち。

麻衣子 へえ…。

スジョン 彼女曰く、ある種の麻薬なんですって。アレがないと狂っちゃう、みたいな。

麻衣子 そう…。

スジョン でも、ある意味贅沢ですよええ…。あ、もともと彼女は…

麻衣子 判る気がする。

スジョン えっ？

麻衣子 ま、今までそれやってた子は、別かも知れないけどね？

スジョン えっと…

麻衣子 何かで時間を潰してないと、飛んでも無いコトしかしてしまっそうな…：そうかも知れない。

スジョン 奥さん？

麻衣子 …ああ、ごめんごめん。

スジョン あ、いえ…あ、そうそう、奥さん、前から一度聞こうと思ってたんですけど…：死体を洗ったりするの、ないですかねえ？

麻衣子 ああ、あれね…

スジョン あ、ありますか、この近くでも。総合病院とか？

麻衣子 あれでしょ？ …病院の地下室のホルマリン漬けされた死体ね。

スジョン ええ、体内のガスで浮き上がってくるのを棒でつついて鎮めたり…

麻衣子 ユンさんは誰から聞いたのその話？

スジョン ああ、友だちですけど…

麻衣子 きつとその友だちも、友だちのまた友だちから聞いたのね。

スジョン えっと…

麻衣子 あのね、遺体をホルマリン保存している病院は、少なくとも日本には

存在しないんだって。

スジョン えっ？

麻衣子 必要性もなければコズトパフォーマンスの面でもありえないんだって。

スジョン そうなんですか？ じゃあ…

麻衣子 いわゆる何？ 怪奇譚じゃなくて…

スジョン 都市伝説？

麻衣子 そうそれ。根も葉もない噂ですって。

スジョン なんだ、そうなんですかあ…：一体3万って聞いたのになあ…

麻衣子 ねえ、ユンさん。

スジョン はい。

麻衣子 大変なの？

スジョン ああ、や、弟たちへの仕送りが、少し…

麻衣子 そう…：ウチもそんなにいつもあるわけじゃないしね…

スジョン いえ、ココは本当に時給も高くて、ホント助かってますので…

麻衣子 まあでもねえ…

スジョン はい。

麻衣子 若い子がいつまでも続ける仕事じゃないから。

スジョン あ、はい。

麻衣子 もちろん助かってはいるんだけどね…

スジョン 奥さんって…

麻衣子 え、何？

スジョン いい人ですな。

麻衣子 え、何、それ？

スジョン いえ、そのままの意味で…

麻衣子 そう？

スジョン はい。

麻衣子 …：そうかな？

スジョン ええ。

麻衣子 ……

スジョン ……あの…

麻衣子 きつとね、あつと言う間よね。

スジョン えっ？

麻衣子 そんなに続かないわよね、こんな生活。  
スジョン はあ…

息を切らして駆け込んでくる作業服の久保山仁。

麻衣子 ああ、お帰りなさい。

久保山仁 どうも…

スジョン どうしたんですか？ そんなに慌てて…

久保山 奥さん、落ち着いて下さいね。

麻衣子 私は落ち着いてますけど？ 少なくともアナタよりは…

久保山 社長が…

麻衣子 え？

久保山 旦那さんの車が事故にあつたつて…

2人 えっ？

久保山 たつた今、搬送先の鳴沢病院から担当の警察が…

麻衣子 うそ…

久保山 なんでも相手は大型トラックらしくて…

麻衣子 和也は？

久保山 和也も一緒なの？

久保山 ああ…ええ、恐らくは…

麻衣子 留守お願い！

走り去る麻衣子。

スジョン あ、奥さん、私も（駆け出そうとする）…

久保山 まあ、待てよ。

スジョン えっ？

久保山 慌てて駆けつけても一緒だよ。

スジョン えっ？

久保山 急いだところで助かるものは助かる、助からないものは助からない。

今はお医者さんの時間だ。

スジョン アンタ…

久保山 それよりどう？ こういうシチュエーションは…

スジョンを背後から抱く久保山。とっさに離れて手もしくは頬をはたくスジョン。

スジョン 言ってるでしょ。二度と私に触るなつて。

久保山 ふん…ま、いいや。（煙草に火をつけ）いい仕事があるんだけど。

スジョン はい？

久保山 ルートは確実だよ。何せ役場の城山さんだからね。3日で20万。

スジョン …こんな時にする話？

久保山 金がいるんでしょ？ 少なくとも遺体洗いよりは確かだぜ。

スジョン 最低…聞き耳？ 慌てて駆け込んできたのもお芝居？

久保山 だから慌ても一緒だつて。ヒトの生き死になんてさ。

スジョン アンタねえ…

久保山 や、別に他に廻してもいいんだけどさ…

スジョン ……

久保山 どうすんのかな？ ユン・スジョンさんは？

暫しの間。麻衣子の去つた方向へ走り去るスジョン。静かに見送りくわえ煙草で机の上を軽く物色し、灰皿で煙草を消して、2人とは逆方向へ去る久保山。無人の舞台。ゆっくり照明が変化する。

## 【SCENE / 2】

10年近くが経過した2010年の同じ倉庫。デジタル一眼レフを構えた友部裕子が先行して入室する。パシャパシャと気になる部屋の部分を撮る。やがて島田三咲が登場。

島田三咲 失礼します…

友部裕子 （撮り続けている）

三咲 えっとお……本当にココでいいのかな？

裕子 （撮りながら）住所は間違いないですよ。ナビも最新版ですしね。

三咲 あっそ…失礼します。

裕子 （撮り続けている）

三咲 いいのかなあ、承諾もなく。

裕子 はい？

三咲 だかああ、こう、なに？ 勝手に入って、勝手にバシヤバシヤ。

裕子 ああ。(微笑んで) 別に普通ですけどね。

三咲 ……あのさあ、裕子さんさあ。

裕子 (カメラの意識のまま) 何でしょう。

三咲 バカにしてるんでしょう？ 私の事。

裕子 え？

三咲 現場を知らない、タンコブだって。

裕子 はい？

三咲 思ってるでしょ？ 所詮は文芸部くずれがって…

裕子 や、別に…

三咲 いいわよ別に、その通りなんだし。私だって慣れないことしてるって自覚もあるし、何？ 編集室でもそんな輩ばかりでさあ、何？ お高く止まつてるみたいな扱いしてさあ…私だって、空気読めないわけじゃないけど、だからどうすりやいいのさ。仕方ないでしょ？ 好きでコツチに回ってきたくてもないし、仕方ないじゃない！ こんな目にあっても会社にしがみついてるのは、自分の意地だって判ってるし…

裕子 あの、島田さん…

三咲 何よ！

裕子 せめて「目の上の」を着けないと…

三咲 はい？

裕子 だから、さっきの、タンコブ…

三咲 え？…目の上の？ タンコブ？

裕子 そうそう。

三咲 え、言わなかった？

裕子 ええ。いきなりタンコブって…

三咲 あら…ははは…そりや笑えるなあ、はは…

裕子 へえ…

三咲 ……何よ。

裕子 いや…

三咲 だから何よ。

裕子 すいません、やっぱ少し先入観で見てたかも、です。

三咲 え？ 何を？

裕子 や、いいです。

三咲 そうお？ あれ、何話してたんだっけ？

裕子 んで…(撮影に戻って) えっとこれって「月間オカルト」ですか？ それとも「神秘の泉」？

三咲 いや。

裕子 あ、じゃあコンビニのワンコインシリーズ？ 驚愕モノ。

三咲 さあ…

裕子 さあ…え、じゃあデスク通ってないんですか？ アテ馬モノ？

三咲 ま、そんなトコかな。十分に資料集めてから編集部に一泡ふかすの。

裕子 うわ、大胆…

三咲 ゴメンネ、フリーなんだってね。

裕子 ああ、ええ…

三咲 てつきり社員の写真部の人かと思つて、強引に予定組ませちゃって…

裕子 や、私は構いませんけど…それこそ今どき、社員のカメラマン抱えてる

のなんて文芸部ぐらいですよ。

三咲 そうなんだってねえ…あ、これが…お高く止まつてって奴かな？

裕子 今はデジカメだから良いですけど、一昔前ならフィルム代だってバカに

ならないし…

三咲 大丈夫。最悪裕子さんギャラは私が個人的に出すから。

裕子 はあ……で、何を企てて？

三咲 読者投稿の多い奴から片っ端に取材して、科学的論拠を突きつけるの。

三咲 ココはまず始めね。

裕子 えっと、それは、霊的なモノも含めて？

三咲 含めますね。

裕子 つまり島田さんは、オカルト的なものを一切信じず、むしろそのトリックというか、都市伝説のいろんな現象を、現実的な価値観に引きずり降ろす

ことに使命を感じていると…

三咲 まあ、そうかなあ。

裕子 危ないなあ。

三咲 えっ？

裕子 危ないですよ、それ。

三咲 ……何が？

裕子 ほら、ホラー映画の原則ですよ。あ、今の洒落じゃないんで…

三咲 ああ、うん。

裕子 ほら、真っ先に餌食になるんですよ。信じてない呑気な登場人物から消されるんです。物語の前座として。

三咲 あら。そりゃ不味いなあ。

女性ならではの共感あって、微笑みあう2人。撮影に戻る裕子。

裕子 ま、無理に信じろとは言いませんがね。

三咲 何？

裕子 一応用心はして下さい。悪意の無いところには噂も生じない：危険なのが霊の仕業だけでも限りませんから。

三咲 わかった。そうする。

裕子 どうやら少なくとも今は、アナタが私のボスみたいなんで。

三咲 了解。……あ、後さあ、こういうのは？

裕子 何です？

三咲 毎日虐待を受けていた少女がね、死神に願い事をするのね。「どうか私の両親をこの世から消してください」って。

裕子 おっと、一気にダイープですねえ…

三咲 とところが朝起きてみると、両親は平然と元気に朝食を取っているの。最初は死神の能力を疑い落胆するんだけど、とある可能性を思いつき、少女は深く絶望するの。

裕子 つまりそれは…：そうかあ…：うわあ、いいなあ、それ。

三咲 もちろん聞いた話なんだけどね。

裕子 つまり、今の両親は本当の親ではなく、もしかしたら遠くで自分を愛してくれてたかも知れない本当の両親を、消しちゃったわけですね、彼女は。

三咲 そういうのを集めたら売れないかなあ？ ただの亡霊がどうか、怪談やUFOモノの寄せ集めじゃ無くてさあ。何？ 読み手の中に、想像力と言う名の現実的な恐怖が色濃く残るようなさあ。

裕子 いいかもですね。確かネットではそんな専門チャンネルがあったけど…

三咲 あら、何だ、そうなの？

裕子 や、でも活字にするとそれなりに別の説得力や想像力も生みそうだし…

三咲 よし、じゃあ作ろうよ。2人で、近いうちに。

裕子 ええ…：あ、一つだけいいですか？

三咲 何？

裕子 三咲さんはなんで2流のサブカルチャー部門に回されたんです？

三咲 ふん。いいねえストレートで…。

裕子 ああ、すいません。昔からコレしかないんで…

三咲 いやいや…：ま、でも、それはまた今度ゆっくりとね。

裕子 ああ、はい。

三咲 ユウに5時間は掛かるから。

裕子 なるほど…。

椅子に腰掛けバッグから葉書の束を取り出す三咲。撮影を再開する裕子。

三咲 「夜な夜な地面を滑るように高速移動する人魂」。

裕子 ああ。

三咲 ポイントは「地面を滑るように」ってトコよね。

裕子 ええ…：うわあ、すごい埃…

モノの集積場から一冊の（先ほどの）パズル雑誌を取り上げ、思いっきり埃を拭く裕子。埃が周囲に巻き上がる。

三咲 ちよつとちよつと…

裕子 ああ、すいません…：うわあ懐つつかしいなあ、月刊クロススマニアの創刊号ですよ。ちよつと10年前かあ…：私、高校の頃はまって…

三咲 へえ、そうなの？

裕子 はは、ほとんど全部、途中で諦めてる…

三咲 （投書に戻って）だいたい噂の原型は同じね、多少の尾ひれはついてるけど…

裕子 あ、じゃあこういうの知ってます？ 私も聞いた話で結構有名なんだけど…

三咲 え、何々？

裕子 とあるカラオケ店舗で妙な客の噂が立ったんですね。

三咲 判った、パンツ一丁で歌うんだ。

裕子 違います。

三咲 全裸とか？

裕子 エスカレーターしてどうします？

三咲 そっか。判った詩吟の演習だ。

裕子 まあ、聞いて下さい。その客は若い男性だったんですが、何故か開店と

同時に入店して深夜まで、一室に閉じこもってるんですね。それも週に4、

5日。食事もドリンクもたのまず何より歌声が聞こえない。

三咲 あ、判った。それは作家ね。もしくは売れない劇作家。

裕子 売れないと無理ですね。毎日かなりの出費だし。

三咲 もしくは太宰治。

裕子 …現代の話です。もしくはの意味判んないし。

三咲 あ、そうかあ。

裕子 でね。その客は見た目にもドンドン痩せていって、店の従業員も段々気

味悪くなってきた、客が帰った後で、リクエスト曲の履歴を調べてみたんで

すね。そしたら同じアーティストの同じ曲がドバーっと200回以上。

三咲 うわお。よっぽど好きだったのかなあ？

裕子 それがアーティスト名も曲名も、聞いたこと無いような冴えない曲で、

謎は深まるばかりで……さあ、彼の行動理由は何だったんでしょう？

三咲 え、クイズだったの？

裕子 ガンガン答えてたじゃないですかあ。

三咲 あ、そうかあ……ちよつと待ってね……その男の入る部屋はいつも決ま

ってたの？

裕子 いいえ。勧められた部屋にあっさり。

三咲 そこで同じ曲を掛け続ける…

裕子 そうです。

三咲 うーん……

長考に入る三咲。微笑んで撮影したデータの整理に入る裕子。

三咲 (立ちあがり) やっぱ、ちよつと探してくる。

裕子 えっ？

三咲 ココの人。気分転換に。

裕子 ああ、はい…

三咲 すいませ〜ん…

部屋の奥に去る三咲。クロスして亜子が入るが、何故か三咲も、見送った視線の裕子も彼女には気付かない。やがて部屋全体を連写モードでゆっくり回転しながら撮影する裕子。ちよつと自分が写る角度でピースサインをする亜子。

裕子 えっ？

ゆっくりとカメラを下ろし亜子を正視する裕子。

亜子 なるほど。

裕子 えっ？

亜子 さすがはプロだね。入り口はあくまでレンズ越しか。

裕子 入り口？

亜子 そのレンズ越しに、世界の真実を切り取ってるんでしょ？

裕子 アンタ…

亜子 あれ？ 違うの？

裕子 …そんな大層なもんでもないけどね…ココの人？ さっき三咲さんが

…あれ？ すれ違わなかった？

亜子 こっち。

裕子 えっ？

亜子 いいものを見せてあげるから。

裕子 えっと…あ、待って…

言うが早い。舞台奥に去る亜子。慌てて後を追う裕子。暫し無人の舞台。やがて倉庫の入口方向から車椅子に乗った田口光彦が入る。

田口光彦 あれ？…どうぞお。

東群しのぶ 失礼しま〜す…

おずおずと入室する東群しのぶ。手には手帳を持っている。

田口 んで、ココが先ほどお話した倉庫です。

しのぶ わあ、素敵なトコロですねぇ。

田口 …何処が？

しのぶ あ…いえ、その…この辺とか、その辺りとか…

田口 今から思っても因果な商売でしたね。引き取り手のない死者の部屋を綺麗に片付ける。こう聞けばある種の社会的な意義もみつけだせそうだが、様々なケースがありますからね。ま、その分、多少の見入りも良かったが…

しのぶ あ、じゃあこれも、そうした物件で？

田口 ああ、いや、これは…ある種の残り香みたいなものですね。洗浄して再利用できるものはその手の業者に運び込みます。

しのぶ その手の業者、ですか…

田口 ま、蛇の道は蛇って奴だね。これは、何と言うか…売れそうもないが…と言ってすぐに捨てるのにも忍びないって言うか…何となくそういう物品があるんですよ。少シココで寝かしておくと言うか…一件につき数点ね。ま、でもさすがに10年は寝かせすぎなんですけど…どうにも手を付ける気になれなくて…

しのぶ へえ…

田口 全くもって迷惑な話です。

しのぶ えっ？

田口 静かに余生を過ごすつもりが…何処の誰の気まぐれかは知らないが、変な噂の標的にされて、先週も見物が2組5人、怪しげな取材が2件…

しのぶ へえ…

田口 もちろん居留守を決め込みますがね。いずれも事前連絡なしです。

しのぶ はあ…ああ、すいません。私も、あ、いや私達も、その、全くのアボなしでお邪魔して…

田口 ああ。

しのぶ や、その、ホント、決してそんな興味本位の取材ではなく、たまたま私のバイト上りがこの近くだったので、ついつい現地待ち合わせにしてしまひまして…

田口 何か飲みますか？

しのぶ いえ、お構いなく。

田口 じゃあホントに構いませんからね。

しのぶ ええ、ホント、それで…それで、あの…

田口 何か？

しのぶ 一つだけお聞きしていいですか？

田口 どうぞ。

しのぶ いつも居留守を決め込んでるアナタが、どうして今日に限って案内までしてくれるんです？ 多分こっちの勝手な勘違いなのに…

田口 ほう。

しのぶ 何でしょう？

田口 なかなか聡明なお嬢さんだ。

しのぶ ああ、ありがとうございます

田口 それはね、多分…横顔が似てるんですよ、息子に。

しのぶ え…

田口 アゴの線とかね。

しのぶ あの…息子さん、ですよ…

田口 ああ、そうか気を悪くしますよね、普通。

しのぶ あ、いえ…

田口 おいくつですか？

しのぶ 私ですか？

田口 他に居ないし。

しのぶ 私は…25です。

田口 へえ…あいつも生きてれば同い年です。

しのぶ え？ あ…なんかすいません…

田口 いやいや…

愛庭光次郎 どもどもども…

いささか派手目な装いの愛庭光次郎が駆け込んできた。

しのぶ あ、先輩！

愛庭 だから先輩じゃなくて、所長。

しのぶ 先輩、実はこちら…

愛庭 どうもお待たせしてすいません。わたくし…(名刺を切つて)愛庭探偵事務所のお庭です。

しのぶ あの先輩…

愛庭 今度その言葉で呼んだら夕飯抜くからな。

しのぶ いつも自分で食べてます。

愛庭 ああ、そうだったけ？……すいませんねえ遅れて。ココへの道中、ちよつと人助けをしてまして……

しのぶ 人助け？

愛庭 行商のおばあちゃんのリアカーがさあ、峠だね。

しのぶ どこをどう通ったら、ココまでに峠があるんです？

愛庭 何か脱輪しちゃっててね……こう、いろんな果物が、こう、ドバアって……

しのぶ およそ最低、最悪な言い訳だと思っただけ……

愛庭 ほら（ポケットからりんごを取り出し）これ、お礼に貰っちゃった。（サクツと一口食して）あ、どうです？

田口 いや、結構。

愛庭 そうですよ……ま、そんな訳で大変申し訳ありませんでした。

田口 はあ……

しのぶ 実は先輩……

愛庭 自己紹介はすんでる？

しのぶ ええ、一応……

愛庭 結構、結構。いえね、一応大学の遠い後輩には当たるので、まんざら間違いないんですけどね……

しのぶ 間違いました！

愛庭 えっ……うそ、じゃあ何処よ。

しのぶ ああ、大学じゃなくて……

愛庭 え、大卒もウソ？ 専門学校？

しのぶ そうじゃなくて……この依頼自体が……

愛庭 え？ どういうことよ……あ、田口さんじゃない？

田口 田口光彦です。

愛庭 ほら、合ってるじゃん。

しのぶ そうじゃなくて……

田口 私はアナタに何も依頼をしていない。

愛庭 ……え？

しのぶ どうやらそういう事のようにです。

愛庭 そういう事……いやいやいやいや、だって最初のメールの依頼にもちゃんと田口光彦ってフルネームで……ま、確かにアドレスの逆算までは試みてませんが、だって前金も早々に、そう、その封筒にも田口光彦って……

しのぶ え、前金？

愛庭 あ、

しのぶ 初耳ですけど。

愛庭 あ、や、あれ言わなかったっけ？

しのぶ いくら？

愛庭 30万、かな？

しのぶ だったら先月の3万、さっさと返して下さいよ。

愛庭 いろいろあるんだよ。事務所代とか、延滞金とか……

しのぶ 延滞金？

愛庭 あ、いや……

田口 お話中ですが、ちよつといいですか？

2人 あ、はい。

田口 封筒に記名と言うことは、現金ですか？

愛庭 ええ……3日前の多分深夜に、事務所の扉の下からこっそり滑らせて……

田口 ちなみに事務所は何階です？

愛庭 雑居ビルの3階ですよ。1階がタイ式マッサージ……

田口 エレベーターは？

愛庭 ない。何せ築35年の骨董品ですから……あ、そうか。

しのぶ 何です？

田口 どうやら僕は、扉までもたどり着けそうにないですな。

愛庭 確かに、あ、いや失礼。

田口 いえ。それに残念ながら30万で探偵を雇う余裕があれば、まずはコインのスペアタイヤを購入したい。

愛庭 はあ……あ、それに……そうか。

しのぶ 今度は何です？

愛庭 うん。一度だけ留守電に声が残ってたけど、この人じゃないなあ……

田口 じゃあ、私はこれで。

愛庭 じゃあ本当に、依頼をされてはいないんですね？

田口 ええ。神に誓って……どうぞ今日のトコロはご自由にお使い下さい。私は隣にいますので。施錠もしなくて結構です。

愛庭 はあ……

田口 では……

倉庫の入り口へと去る田口。見送りながらポケットからりんごを取

り出し作さくつとかじる愛庭。

愛庭 おあいっえ？

しのぶ はい？

愛庭 …隣って？

しのぶ ああ、ええ。住居が。と言っても賃貸マンションですが。

愛庭 へえ。何だ結構いいトコ住んでんじゃん。

しのぶ 小綺麗にしてらっしゃいましたよ。観葉植物とかいっぱい。

愛庭 へえ、って、え、何？ 部屋まで上がり込んだの？

しのぶ あ、いえ、表で先輩待ってる時に、大荷物抱えてるあの人が来まして、

大変そうだったから声掛けたんです。

愛庭 ふーん。やっぱ善人揃いだなあ、ウチの事務所は。

しのぶ で、何で遅れたんです？

愛庭 だからあ峠でおばあさんを…あ、そうそう（逆のポケットからもう一つ

りんごを取り出して）ほい。お前の分。

しのぶ あ。

愛庭 ちゃんともらってきましょ。ほら。

しのぶ ……

愛庭 え、好物でしょ？

しのぶ ……

愛庭 え、うそ？ ココで長考？

しのぶ ……

愛庭 お前の長考長いからなあ…ま、だから長考つうんだけどね…

しのぶ ……

愛庭 大丈夫。コレを貰っても君のプライドは少しも傷つかない。

しのぶ ……（少しだけ動き、戻る）…

愛庭 今、少し動いたじゃん。

しのぶ ……

愛庭 粘るねえ…じゃあ（ズボンのポケットを弄り）こっち。

三万円を差し出す愛庭。コレにはすかさず反応し、2回枚数を数え透かしを確認するしのぶ。

しのぶ 本物だ。

愛庭 当り前でしょ。人聞き悪いなあ。

しのぶ え、じゃあ前金が置いてあったのは本当なんですか？

愛庭 信じようよ、上司の言葉を。人類みな兄弟。世界が平和でありますように。

しのぶ いつも人を見たら泥棒と思えって。

愛庭 そうだっけ？

しのぶ 事務所の額縁にも書いてありますけど。

愛庭 いかんなあ最近の若者は、心がすさんでるねえ。

しのぶ 先輩に言われたくありません。

愛庭 だからそれも止めようよ。早稲田とか慶応じゃないんだから…

しのぶ 利子は？

愛庭 はい？

しのぶ 7日間の利子。

おもむろにりんごを差し出す田口。少し躊躇するも受け取り、サクつとかじるしのぶ。

愛庭 しかしお前もレベル上がってるねえ。所長を出し抜きさつさと依頼人と

親しくなる辺り。

しのぶ おえああああえう。

愛庭 ん？

しのぶ …それはたまたまです。何でも亡くなった息子さんに面影が似てると

かで。

愛庭 田口和也ね。10年前に親父の運転する車に同乗中、交通事故にあって

他界。運転してた特別清掃業社長の田口光彦は下半身不随の大怪我。それを

機に半年後、家業の「片し屋本舗」も廃業してる。

しのぶ え、そうなんですか…

愛庭 依頼人の身元ぐらいは調べますよ。まあ、でも本当に依頼主ではないよ

うだけど…

しのぶ ああ、それと、どうやらココ、新しい都市伝説の温床になってるらし

くて…

愛庭 ふーん。

しのぶ 随分迷惑してるって：

愛庭 そんなだよね。

しのぶ え、何処です？

愛庭 何で10年間も放置する？ ココ。ろくに施錠もせずにさあ…そりやあ

変な噂も立つでしょうに：

しのぶ 確かに…廃業してるんですもんね…

三咲 わかったわかった、カラオケ引きこもりの謎お。

奥から笑顔で飛び込んでくる三咲。

三咲 あれ？

しのぶ 姉ちゃん！

三咲 えっ？…しのぶ、あんた何やってるのよこんな所で。

しのぶ 何でもいいでしょ？

三咲 良くない。最近全然顔見せないし…ココんところ、タモツの面倒、全部

私が見てるのよ。

しのぶ え、そうなの？

三咲 そうよ。一日中部屋でゴロゴロしててさあ。相変わらず好き嫌い激しい

し。

しのぶ 母さんは？

三咲 お友だちと北欧旅行。あと5日は帰らない。

しのぶ 判った、近いうちに覗く。

三咲 アンタの近いうちは当てにならないからなあ…

しのぶ 大丈夫かなあタモツ…

愛庭 (勇気を持って間に入り) 弟さんですか？

三咲 はい？…あ、どうも…

愛庭 どうも。

三咲 姉ですけど…

愛庭 …ああ、はいはい、いえいえ、タモツ君。

三咲 犬ですけど。

愛庭 …ああ。

三咲 失礼ですけどアナタ…

愛庭 ああ、ええ…私…

三咲 うそ、そういう事なの？

愛庭 はい？

三咲 援助交際ですかあ？ しかもこんな…いわゆる廃屋プレイ？

しのぶ 姉さん！

三咲 何考えてるのよアンタ。

しのぶ 考えてるのは全部姉さんだからね。

三咲 え、そうなの？ 何が？

しのぶ 先輩は私の上司です。

三咲 え…先輩って部活の？ あ、折り紙同好会？

しのぶ …それは中学。

三咲 あ、じゃあ新商品お菓子研究会？

愛庭 どういう部活じゃい！

三咲 私が初代の部長ですけど…

愛庭 うわあ、なかなかユニークな発想ですよねえ…

しのぶ そうじゃなくて、ちゃんとお仕事で来てるの。

三咲 仕事って…

愛庭 (名刺を切って) 愛庭と申します…

三咲 ……うそ、アンタ本当に探偵事務所バイトして？

しのぶ ちゃんと言ったでしょ。

三咲 でも…

愛庭 あのお姉さん。

三咲 ああ、はい…

愛庭 今、そちらから来られましたよねえ…

三咲 ええ。

愛庭 ちなみに興ってどんな感じですか？

三咲 ああ、簡単な炊事ができる程度の水周り、シャワー室、トイレ。後は

物置のようなのが2つと、ああ、そうそう、開かずの間が一つ。

愛庭 ほう、開かずの間ねえ…金ちゃんでもいるのかな？

しのぶ 先輩…

愛庭 ジョークだって、ほら、よく言うでしょ？ 森に住むお婆さんの家の扉

しのぶ が、なぜかその日は…

愛庭 え、そう？

三咲 中国の方ですか？  
愛庭 はい？  
三咲 ですから金さん？ ああ、遠山の？  
しのぶ もういいから姉さん。  
三咲 え、何？  
愛庭 じゃあ、ちよつと拝見してこようかな。ああ、どうぞ、後は姉妹水入らずで。

りんごを頬張りながら、軽やかに奥に去る愛庭。

しのぶ ちよつと先輩…  
三咲 アンタはまだダメよ。  
しのぶ はい？  
三咲 まあ、仕事つてのは認めるとして…何？ 何か事件なの？  
しのぶ そういう姉さんは？  
三咲 えっ？  
しのぶ 竹田出版のお堅い文芸部が何の用？  
三咲 ああ、これは…  
しのぶ 明らかに取材でしょ？ 現場なんか出てたっけ？  
三咲 いろいろあるのよ、大人には。  
しのぶ へえ。  
三咲 何よ。  
しのぶ 判りやすいんだから。  
三咲 はい？  
しのぶ 私を子ども扱いするクセ。調子が悪くなるといつも。  
三咲 え、そうだった？ 昔から？  
しのぶ で、何？  
三咲 ああ、うん…話すのも面倒なんだけど…あれ？ そう言えば…  
しのぶ 何？  
三咲 カメラマンいなかった？ 女性の。  
しのぶ や、知らない。  
三咲 あれ？ そう？（携帯を開いて）おつかしいなあ…あ、え、何で圏外？  
しのぶ 磁場とかって奴じゃない？

三咲 （携帯さわりながら）磁場あ？  
しのぶ あるんだってよ、街中でもそういうエアポケットのような空間が。  
三咲 （携帯さわりながら）それで集まるのかな？ いろいろ。  
しのぶ えっ？ や、そういう話ではなく、ただ電波の…  
三咲 （携帯さわりながら）じゃあ、神隠しかな？  
しのぶ えっ？  
三咲 ちよつと電話してくる。

携帯操作をしながら外へ去る三咲。クロスしてスジョンが無機質に入室するが、しのぶも気付かず、互いに絡まない。

しのぶ 嫌なセリフ残して去るなよ…えっ？

奥から、久保山がフラリと入室。何か簡易テーブルのようなモノを持っている。しのぶ、悪寒を感じ振り向くが、久保山は見えない。しのぶ、奥へ行こうかとも迷うが止めて、

しのぶ ったくどいつもこいつもマイペースなんだから…

と、外を選択して去る。それとクロスして奥から、スーパーの袋を携えた麻衣子も入室。3人は銘々無言で、次のシーンのセッティングをする。やがて、奥から裕子、外から田口が同時に入室。

裕子 （\*）お待たせっ。

田口 （\*）お待たせ。

裕子 …あれ？

三咲の不在を気にしながら、手に持ったもう一つのカメラに意識を向け、調べる裕子。首からは自分のカメラを下げている。

裕子 あれ？…残ってるじゃん…

この辺りまでにテーブルを囲む4人。最後に麻衣子が写真立てをテ

ーブルの客席側に置く。小型のカメラを構えた裕子が、しゃがみ込んで背後に焦点を合わす。カシヤ。自然と(?)カメラ目線になる4人。加えて亜子も飛び込みピースサイン。照明がセピアに風景を切り取る。暫し5人はストップモーション。

裕子 えっ？

【SCENE/3】 麻衣子が机上のお鈴を鳴らし合掌する4人。フアインダーで覗いた風景と実際の差に驚き、出口へと足早に去る裕子。亜子はテーブルから離れて遊んでいる。酒のようなモノを適当に注ぎあう皆。照明さらに変化して、10年を遡る。

田口 …じゃあ、まあ、取りあえず…

さすがに「乾杯」の声はなく、仕草だけで一口飲む4人。未成年はもちろん参加できない。

麻衣子 …さあ、どうぞ。有り合わせのものだけど。  
久保山 いただきます。

控えめに箸を進める面々。微妙な間。

久保山 あ、これ美味いっすね、里芋？

スジョン え、コレ？……ホントだ。

久保山 やっぱ違うなあ、麻衣子さんの手料理は。

麻衣子 スーパー。

スジョン えっ？

麻衣子 コレと、コレ。スーパー。

スジョン ああ…

久保山 すいません。

暫し黙々としている4人。不意に箸で里芋を突き刺ししげしげ見ている麻衣子。皆、あえて絡まない。

スジョン …でも、あつと言う間ですよね。もう49日…

田口 うん。

久保山 ……にしても、昼間の坊主、成長しねえなあ。

スジョン え、そうなの？

久保山 何かプレスがおかしいんだよね。「きりゆう、くーどく、だいほうかい」のトコ、噛んでたし。

スジョン ああ、正信傷(しようじんげ)…いつそ仁さんがあげればいいのに。

久保山 そりゃ 안타…仕事ん時はパフォーマンスだからさ…

スジョン え、何それ。

田口 神保町の方だった？

久保山 ああ、ええ。まあ何とか。ちよつと体液とか多かったですけど…

田口 そう。

久保山 結構若かったですからねえ…あれで身寄りが無いってんだから…

スジョン 仁さん…

久保山 あ、そうか…すいません。

田口 いや、振ったの俺だし…

里芋をパクつと口に入れる麻衣子。重い間。

田口 …あ、そう、どうする来月の。

麻衣子 …はい？

田口 町の視察旅行。自治会長の山際さんが返事欲しいって。

麻衣子 ……

田口 ソウル。せっかく積み立てたんだしって。

麻衣子 ……ああ。

田口 いい気晴らしになるしさ。

すつくと立ち上がる麻衣子。視線の先は亜子。亜子も気配で振り向き麻衣子を見つめる。

麻衣子 もう、いいよね？

田口 えっ？

視線の先を確認するが、3人に亜子は見えない。無言で首を横に振る亜子。

麻衣子 (亜子を見たまま) 後、お願い。

田口 …おい…

踵を返し倉庫の奥に去る麻衣子。送られて追う田口。

久保山 …やれやれ。大変だよ。

スジョン 奥さん、ほとんど寝てないみたい。

久保山 うん。まあ、…でもやっぱ因果だよ。

スジョン えっ？

久保山 こんな仕事続けてりやね。身に覚えのない余計なモノ、自然背負い

込むからさ。

スジョン へえ。

久保山 何だよ。

スジョン アンタが殊勝なコト言うと、返って気味悪いわ。

久保山 ふん…

スジョン 相手は？ 大型トラックの…

久保山 いろいろ片付きだしてるらしいよ。とはいえ保険屋相手だけどね。本人は交通刑務所。

スジョン そっかあ…

久保山 ま、昼真つから酒飲んで半分居眠りじゃあね。余地はないよ。

スジョン 結構若かったんでしょ？

久保山 明日はわが身つてね。

スジョン えっ？

久保山 這い上がんなきゃね。遅くならないうちに。

スジョン アンタ…

久保山 で？ 考えてくれたこの前の件。

スジョン …だから私は…

倉庫の空間に戻る田口。口をつぐむ2人。亜子は無心にクロスワー

ドを続けている。

田口 …何かすまんね。アイツが言い出したコトなのに…

スジョン 大丈夫ですか？ 奥さん。

田口 また閉じこもられちゃった。内鍵掛けて。

スジョン ああ、和也君の…

田口 悪いけど、後で見えてきてやって。

スジョン ええ、はい…

田口 にしても…(視線を別空間に写し)…誰かいるのかなあ…

暫しの間。酒をもう一杯飲む久保山。

スジョン …私、やっぱ見えます。

田口 あ、そう…悪いね。

倉庫奥に去るスジョン。テーブルに戻る田口。

久保山 ……さてと、じゃあ俺も悪いけど…

田口 まだ付き合ってるの？

久保山 ……えっ？

田口 役場の城山でしょ。アイツは用心した方がいい。

久保山 ……やっだなあ、ただのバイトですよ。ほら海岸脇の国道、なぜかやたら猫が多くて。

田口 知ってるよ。一体3000円。昔2回だけやった。

久保山 なんだそうですかあ。でもホント、猫ってバカですよ。懲りもせず

に車にぶつかってくる。自分の敏捷性を試してるのかなあ……ほら、あの辺、

宅地造成で家増えちゃったでしょ？ 苦情が殺到してるらしくて…

田口 変わんないね、お前さんも。

久保山 えっ？

田口 何かを隠してる時ほど饒舌になる。普段寡黙な分だけ目立つ。

久保山 社長…

田口 仁さんだっけ気づいてるんだろ？

城山が裏で組と繋がってってコト

ぐらい。

久保山 ……

田口 西山組の息の掛かった企業は知ってるよね。

久保山 袴田建設でしょ？

田口 そう。あそこが今度、新たに産業廃棄物の処理場をこしらえるらしい。北見村の山奥にね。

久保山 なんだ、ちゃんと社会に貢献しようとしてるじゃないですか。

田口 ふん。確かにニーズを研究してるね。上手く軌道に乗れば組の活動資金には十分だ。んで、年寄りの山持ち相手に、二足三文で買収してるのが、役場の城山ってわけ。

久保山 へえ。

田口 ずいぶん強力な償却炉を持つらしいよ。

久保山 あ、そうか、じゃあ猫の死体処理も楽になりますね。作業が半減…単価も一気に下がるなあ…

田口 ま、猫に留まれば幸いだけだね。

久保山 え…あ。

田口 組がらみの企業がハイパワー焼却炉を持つてことはそういうことだよ。お前さんの扱う遺体も、大型化するかも知れない。体を覆う毛すら無くなるかも知れない。

久保山 なるほど…いちいち海まで運ばなくてもいいわけだ…

田口 もしかしてもう手を染めたかい？ 焼却炉はまだとしても…

久保山 社長…

田口 ま、アンタの生き方にとにかく言う気はないけどね、気付いたら自分が焼却炉の中だった、何てことにならないようにね。

久保山 はあ…

田口 俺もさ、人様に忠告できる家業でないことは知ってるよ。境界ギリギリの仕事だな。でも、やっぱ境界線はあるんだよ。超えちゃいけない一線。それを自分で引くわけさ。

久保山 ……ご忠告、どうもです。

田口 いやいや。

久保山 でも社長。

田口 ん？

久保山 そこまで僕の身を思ってくれてるなら、どうです？ コツチで貰う現ナマをアップして俺を綱ぎ止めるってのもありかと思うんですけど。

田口 給料上げただろ？ 俺が携われなくなつてすぐに。

久保山 いやいや…いっそ経営権とかね…

田口 仁さん…

久保山 社長には、これを機に引退願つてですねえ、保険金や賠償金で結構やっつけられるんですよ？ 和也君の方も含めて…

田口 お前…

久保山 こんな言い方したくないんですけどね…こつちも人生かかっていますから。ノルカソルか…ま、そんな時期なんで…

田口 ふん。脅し文句だけは堂に入ってきたね。ま、いささか常套句の匂いは強いけど…

スジョン 社長、奥さんが…

田口 えっ？

駆け込んだスジョンの言葉の続きを待たず、麻衣子が大きなスーツケースを転がしながら入室。

田口 ……麻衣子…

麻衣子 もう、いいよね？

田口 えっ？

麻衣子 後、お願い。

亜子 ダメだよ。

麻衣子 いいじゃない！

スジョン えっ？

田口 麻衣子？

亜子 まだ早いわ。

麻衣子 早くない。もういいの。

スジョン 奥さん？

久保山 誰と…喋ってるんですか？

麻衣子 ちゃんと判ってますよ。和也は死んだの。骨になった和也をお箸で拾ったでしょ？ お墓も行ったでしょ？ 私はついつい和也の分まで食事を作ったりしませんよ。待つても帰つてこないでしょ？ ちゃんと判つてますよ。あの子と二度と話が出来ないことぐらい。

久保山 奥さん、落ち着いて…

麻衣子 おかしいのはどっちです？ お友だちやら担任やら、眠ってる和也の遺体に話しかけて。聞こえませんでした。校長先生が新聞にコメント書いて。読めませんでした。ありがたなお経が長々と。喜びませんでした。癒されませんでした。ホント笑っちゃうんだから。

田口 …麻衣子…

麻衣子 ハハ、このところそう呼んでくれるのよね。麻衣子って。何年ぶり？ まるで新婚さんみたいね。

田口 お前…

麻衣子 だから判ってるって。氣遣ってくれてるんですよ？ 今までみたいに

「母さん」と呼んで、私が和也を思い出さないように。

田口 …悪いがちよつと外してくれるかな？

スジョン ああ、はい…

麻衣子 いいのいいの。外すのは私。外したいの私。ココに居ると何も判らなくなる。どうしても見つけ出さなきゃいけないの。和也を殺した犯人を。

久保山 や、奥さん。奴だったら今頃刑務所の塀の中に…

麻衣子 それは加害者でしょ？ 犯人じゃないわ。

スジョン 奥さん？…

麻衣子 和也をこの世から消した張本人。え？ 何？ 神様？ 悪魔？ いやいや、そんな大層なモンじゃないでしょう？

椅子に座り、残った酒を飲み干す麻衣子。

久保山 奥さん…

麻衣子 共犯なんだな、これが。

久保山 えっ？

麻衣子 どうやら複数犯なのね。んで、その片棒は他ならぬ私。

スジョン それは…

麻衣子 あの日…そう、和也が事故にあう直前、もしくはまさにその瞬間。私ね、とある人の死を願ったの。それが和也に飛び火したの。

田口 飛び火？

麻衣子 もしくはバタフライ論理の燐粉かな？

スジョン どういう事です。

田口 もしかして…親父さん…

麻衣子 寝たきり3年目。二日おきに覗けば覗いたで我俣で甘えて…昔はことある毎に手を上げる人だったのにねえ…

久保山 や、でも…

麻衣子 戒めてくれたよね。

亜子 えっ？

麻衣子 でも手遅れだった。

田口&亜子 違うよ！

麻衣子 いいからいいから。全部判ってるの。判んないのはもう一人の共犯者

田口 俺だつて言いたいんだろ？

麻衣子 別に。

田口 それならそれで構わないよ。

スジョン 社長…

麻衣子 エアバックも装備してない中古の軽トラ。荷台には行く宛てのない他人の遺品を積み上げて…和也のカラダはハンドルの衝撃をダイレクトに

背中に受けていた…仁さんも一緒に聞いてくれたでしょ？ 警察からの最終報告。

久保山 ええ…とつさに社長の…父親のカラダを庇ったんだらうって…

スジョン そうだったんですか？…

麻衣子 あなたの上半身には、あの子の愛が詰まってるのよね…

田口 そうとも限らんがね…

スジョン えっ？

麻衣子 何よ…

田口 いや、いい…

麻衣子 やっぱリースが揃わない。

スジョン えっ？

麻衣子 どこからか狂つてきている。もちろん私も狂ってる。和也の死と言う抽象画を上手く組み立てられないの。だから…少し頭を冷やしてきます。

田口 待ってくれ。

麻衣子 ココに居ちゃいけないの。あの子の部屋で、じつと息を潜めているとね。頭の中に警告音が鳴り響く。多分、和也ね。母さん、ココにいちやいけ

ないよ、ってね。

田口 麻衣子…

麻衣子 ほんとにすいませんねえ。どうしてもあの子の保険金で生活する気にはなれないんです。私は全然知らなかったしね。

田口 そういう言い方はよさないか。自分を傷つけるだけだよ。

麻衣子 お願ひ、放っておいて…私の気が済むまで…

田口 …判ったよ。

スジョン え、でも社長…

田口 だが、せめて…鍵を置いていってくれ。

麻衣子 フフ…やっと本音が出たじゃない。そうよね、最愛の和也の部屋。いろいろ思い出に浸りたいわよね。

田口 そう言う意味じゃないが…

麻衣子 (スジョンに) 構わない？

スジョン …え？…私…

麻衣子 そう。じゃあ…どうぞ。

部屋の鍵らしきものを田口に放る麻衣子。その放物線に走りこみ、

キヤッチする亜子。

スジョン え、うそ…

久保山 消えた…。

何も掴めなかった右手を見つめる田口。亜子を見つめる麻衣子。少し床を探す視線の久保山とスジョン。

奥さん…何かの手品ですか？

麻衣子 神隠しかな？

久保山 えっ？

麻衣子 じゃあ…後、お願い。

亜子 麻衣子さん…

机の上の写真立てを手にし、有無を言わさぬ雰囲気の外へ去る麻衣子。暫し無言の間。亜子だけが浮遊し、鍵を持って手持ちぶさた。

スジョン …コレ、片しますね…

食べ物やお鈴などをお盆に載せるスジョン。

久保山 …手伝おうか？

スジョン ううん…じゃあ、ちよっと…

奥へ去るスジョン。

久保山 何か変でしたよね、さつき。

田口 ……

久保山 だから、奥さんとスジョン。

田口 …ん？ あ、悪い、何だって？

久保山 あ、いや…

酒の残りを一口飲む田口。間に困る久保山。

久保山 何なら、いつでも開けますから。カブくで。

田口 …えっ？

久保山 だから、部屋。和也君の。

田口 ああ…や、うん。ま、その時は…

久保山 奥さん、居場所探っておきましようか？

田口 いや、いい。

久保山 はあ…じゃあ、俺も…何か手伝うことあったら…社長？

田口 やっぱいいよ、それで。

久保山 えっ？

田口 仁さんの好きにやってくれ、ココ。経営も管理も。

久保山 社長…

もう一杯飲む田口。倉庫の空間を見回し、やがて田口を見て、脱兎の如く走り去る久保山。

亜子 10年。

田口 えっ？

亜子 10年は覚悟が必要だね。

田口 10年……  
きつとね、あつと言う間さ。

改めて周囲を伺うが、田口に亜子の姿は見えない。

田口 フツ…賞味期限付きかい？ ま、それもいいかもな…そんな人生も…

【SCENE/4】 コップ酒をあおる田口。霧のように消える亜子。明かりがじわりと10年の時を刻む。いつしか脇に立ちメモを取っている三咲。

田口 どうです？ もう少し。

三咲 あ、いえ、もう私は。  
そう。

さらに自分で注ぐ田口。養老の滝か？ 飲みすぎである。

田口 と、ま、そんなこんなでおめおめココで生きてるわけです。

三咲 それは最初の話の「姿泣き声」に従って？

田口 いや、あれこそ酔った上での幻聴でしょうね。妻は元々精神的に不安定なところがあって、私がこの家業に従事して、ますます度合いを深めていった。一人の空間で誰かと会話しているのを見かけた、なんて言う従業員もいましたね。そんな彼女の残り香が、どこか私に作用したんでしょう。靈感のカケラもない私にね。

三咲 はあ…：…一つだけいいですか？

田口 本当に一つかなあ…  
三咲 じゃあ田口さんは、この10年の間、息子さんのお部屋には一度も立ち入らずに？

田口 ええ、そうですね。麻衣子が出て行って程なく、家業を引き払いました。さすがにこの体で清掃業は無理だし、なぜか右腕だった社員も顔を出さなくなりまして。

三咲 えっと、久保山仁ですか？

田口 あの日を境にぼったりと…半ば本気で譲ってもいいや、って思ってたんですが…

三咲 へえ…  
田口 ああ、部屋の話でしたよねえ、すいません。

三咲 あ、いえ…  
田口 とはいえ彼の言葉どおり、誰か人に頼んで強引に開けることは出来たんですけどね…：…正直、部屋までに段差はあるが、鍵さえ壊せば這ってでも入りたい、その衝動はありましたね。

三咲 それでも、堪えられたんですね、10年の間…  
田口 半分は意地ですね。そして半分は…や、今でもそうだな…怖いんですよ。自分の中の、何でしょう、自分の愛してた息子の知りたくない部分に触れてしまいたいのでね…

三咲 なるほど…：…一つ聞きますが、先ほどのスジョンと言う女性は？  
田口 2つ目。  
三咲 えっ？

田口 あ、いえ…：…彼女は慣れない私の一人暮らしをいろいろサポートしてくれました。それでも2ヶ月ぐらいかな？ さすがに世間の目もあるし、私も一人暮らしのメドも立って、それなりの退職金のようなものを渡してお暇してもらいました。

三咲 そうですか…  
田口 ほぼ毎日ですね。

三咲 えっ？  
田口 それからほぼ毎日、10年間。和也の部屋の前に佇みます。でもそれは、そう、日課のようなものでして…

三咲 はあ…あ、でも、今扉は…  
田口 ええ。あれは誰かの悪戯でしょうね。スジョンが去ってから少しして、扉自体が5寸の釘で撃ちつけられていた。何箇所も…：…このカラダじゃ、抜くわけにも行きません。

三咲 一つ聞いてもいいですか？  
田口 ……  
三咲 あの、何か？

田口 いえ、どうぞ。  
三咲 生前の和也さん、何かご趣味は…

田口 へえ…

三咲 あの、何か？

田口 姉妹そろって、なかなか鋭い。

三咲 ああ、いえ、あの子は…あ、何か失礼なコトしませんでした？

田口 いえ。

三咲 何かお部屋にも入れてもらってるようで…

田口 いえいえ、荷物をね、手伝ってくれて…優しい子です。

三咲 はあ…

田口 妹さんとは本当にココで偶然？

三咲 ええ、ほぼ半年振りで。

田口 ふーん…：こうして引き寄せられていくのかな？

三咲 えっと？

田口 あの日から今まで、世間から切り取られたように実に細々と生きてきたが、10年を経て、勝手に周りが蠢いてきている…アナタといい、怪しげな探偵さんといい、何より迷惑な都市伝説といい…

三咲 なるほど…：まるであれですね。カラオケ店舗に引きこもって、毎日何百回も、同じ曲をリクエストし続けている感じですね。決して自分では歌い

もせずに。

田口 ああ…それは聞いたことがある…：いわゆるRPGモノですね…

三咲 ええ。飲食も取らずに、一心に、ただただカラオケに流れるプロモーションビデオの映像だけを眺めている…

田口 答えは確か、死んだ彼女を忘れない男性でしたか…

三咲 ええ。女優志願の彼女が、唯一残したビデオ映像。曲へのリクエストが減ればすぐにでも配信が停止してしまいそうな、無名の曲…

田口 なかなか出来た話だが、そうスマートには行きませんよ。

三咲 誰かが10年間、念じ続けているんじゃないですか？ 和也君のことを

思っ…

田口 それこそ迷惑な話です。本心、静かに余生を過ごしたい。

三咲 でも、少なくとも奥さんの帰還は待っている…

田口 …：それもどうか？…：そろそろお開きにしませんか？ 倉庫の前で

三咲 仲むアナタに声を掛けた事を、後悔したくもないんでね。

田口 …：閉鎖しようと思いません、長々と…

三咲 …：閉鎖しようと思いません、長々と…

三咲 えっ？

田口 ココ。

三咲 ああ…：え、それは…それこそ姿なき予言に敬意を払って？

田口 フフ、そうばかりでもないが…：ささやかなお別れの会を催します。ぜひアナタも来て下さい。

三咲 え、いつですか？

田口 ちょうど1週間後の夜11時。息子の誕生日なんです。

三咲 ああ、はい…

田口 この夏も思ったんですが、ま、命日とかだと何か湿っぽいし…：よければ

三咲 妹さんも…あ、や、彼女は放っておいても大丈夫かな？

三咲 あ、一つだけいいですか？

田口 あなたねえ…

三咲 ああ、いえ、今度はコチラからの情報提供です。

田口 ほう…：ギブ&テイクね。

三咲 田口さん、ネットはされます？

田口 いや、ほとんど。困った時に百貨辞典代わり程度ですが…

三咲 あのね…：(葉書の束を出して)ウチの雑誌にこうして投稿してくる古風

なマニアもまだまだ多いんですが…：今や新しい都市伝説は全てメットの専用チャンネルで産み落とされているんです。

田口 へえ…

三咲 それで、ココの事を書き込んでるサイトを重点的に検索した結果、怪しい人物に行き当たりまして…：なんて言うのかな、皆で盛り上がる話の中で、

上手く目立たないように配慮してはるんですが、さりげなく話題のキーマン

になってるんですね。

田口 でも、あれでしょ？ そういうのって偽名と言うかニックネームが主流

なんでしょ？

三咲 ええ、もちろんその人物もハンドルネームです。その名を「やみぐも」。

田口 やみぐも…：まさか…

三咲 え、お心当たりありますか？

田口 小学生の時にアイツに付けられてたあだ名です。や、それどこか…

三咲 何です。

田口 島田さん、あなた一つ聞き忘れてますね。

三咲 えっ？

田口 アナタがなされた質問ですよ。私は鋭いと評価した…

三咲 ああ、えっと…そうか趣味ですね、和也君の？

田口 ええ。…作業が全くの不規則なため、アイツをスポーツ少年団に入れてやれなかった。凄くやりたかつてんですけどね。父兄の当番とか厳しくて…それで不憫に思っ、ついつい高価なモノを買い与えてしまう…

三咲 パソコンとかゲームとか？

田口 ああ、確かに。パズルモノは好きでよくクロスワードとかやってたが…あいつの趣味はカメラです。

三咲 へえ…

田口 小学生の時に買い与え、中学では一眼レフも持った。死ぬ直前、高1の頃にはまだまだ高価なデジカメにも興味を持って…

三咲 そうなんですか…

田口 普通なら嫌がる「やみぐも」なんてあだ名を、何故か気に入っていた様子で…アイツはね、写真を投稿する際のペンネーム、いわゆるカメラマンネームにも使ってたんです。

三咲 カメラマンネーム「やみぐも」…え、じゃあ…今なされているサイトへの書き込みは…

田口 だから「まさか」なんです。これまた迷惑な話です。

三咲 はあ…あ、そういえば…

田口 今度は何ですか？

三咲 ああ、いえ…これは田口さんには直接関係ないと思うのですが…

田口 ま、いろいろ繋がってますからね。

三咲 ウチのカメラマンがプチ行方不明でして…えっ？

コトリと暗転。

【SSCENE】5 明かりが入る。まずは今までと同じ倉庫の中。中央で亜子が独りクロスワードパズルに興じている。

亜子 がああ…くっそお…

亜子、苦戦の末。別のページに移る。

亜子 えっとお…4文字、最初が「マ」、次が「ネ」。縦のヒント「生きて

は無いけど服は着る」…

スジョン マネキン。

亜子 えっ？

周りを見回すが、今までは逆に、誰も見えない亜子。静かにスジョンが入ってくる。微かな違和感を感じつつ雑誌に戻る亜子。明かりがゆっくり変化し、じわり不条理な空間へと移行する。最近流行りの（どこで？）いわゆるイリュージョンシステムの変形であろう。締め切りに追われ、かつ収集がつかなくなった時に乱用される。この不必要に長いト書きも、当座の行数稼ぎかもしれない…。

亜子 あ、そっかそっか…マネキン…と…じゃあ、次が…

スジョン 7文字、最初が「チ」、次が最後が「ン」

亜子 え？…ああ、うん。

スジョン チャクガンテン。

亜子 あ、そうか、チャクガンテンだな…んと…じゃあ…ああ、これこれ、最後が「ガ」なわけだから…

どこからか手鏡を取り出し、顔、髪型、容姿などを、ゆっくり入念にチェックし始めるスジョン。

亜子 …えっと、4文字で…横のヒント。「既にもうそこには居ないのに、名

残りの想いばかりが漂っている」…なんじゃこりや、長いって。

愛庭 ノコリガ。

亜子 え？（反応はせず）…あ、そうかそうか、残り香かあ…ふんふん…ん？

いつしか本を読みながら登場している愛庭。亜子は別の誰かを感じて視線を上げるが愛庭にフォーカスは合っていない。

愛庭

クロスワードパズルの誕生に関しては、実に多くの説があるようですが、

私は1913年、「ニューヨーク・ワールド」という新聞に掲載されたものを採用しています。年の瀬迫る12月21日の日曜版に、クリスマス特別企画として掲載されたんですなあ。

亜子 「ホ」で始まる5文字。横のヒント「時を越えて肉体を保つ溶液、かつて大学病院では…」

スジョン ホルマリン。

亜子 おうおう。ホルマリンね…

愛庭 むろん、それまでも子供向きでシンプルな、似たような言葉遊びはあったようです。でもその日曜版の作家は大変苦労したようです。まずは、一回だけのつもりが、圧倒的な反響を得て、連載モノになりました。

亜子 後はと…「カ」で始まる5文字…

この辺りで明かりはかなり絞られており、通常舞台のエリア外に裕子が立って何やらマイムで作業をしている。赤いサスの中、暗室での現像作業にも見える。別空間が気になる亜子。

愛庭 ココからがアメリカらしい大フィーバーですね。通勤列車の乗客はほとんど誰もがクロスワードのパズルを解いており、車内にサービスの辞書が置かれている車両もあったらしい。パズルクロスワードばかりやってる夫を、妻が裁判で訴えて、「パズルは1日3問まで」という、名判決が生まれたりしたのです。

亜子 (戻って) えっと…横の4だから…

スジョン あっという間に。

亜子&裕子 えっ？

スジョン 風のように、ある日自分が、消えてしまえばいいのに。誰かが知らない町に連れ去ってくれればいいのに…

亜子&裕子 えっ？

裕子 (一枚を明かりにかざして) これは…

亜子 そうか…「カミカクシ」…(慌てて記載)

しのぶ ア行、5文字。

亜子 えっ？

別の空間に現れるしのぶ。何やら電子辞書のようなモノを操作して

いる。まだ鏡に見入っているスジョン。裕子は一層緊迫して、次の現像に取り掛かっている。

しのぶ 横の鍵「10年経っても追い越されない。生きている限りは」

スジョン あ、判った。

亜子 えっ？

スジョン それはねえ「オナイドシ」。

しのぶ ご名答。

愛庭 イギリスは当初冷ややかで、タイム誌が「アメリカ人はつまらないことに時間を使う」との記事を載せたが、ブームは海を軽やかに越え、2カ月後にはタイム誌自らがクロスワードパズルを掲載しました。女性用のブレスレット型小型辞書が飛ぶように売れ、図書館では新聞のクロスワードページを黒く塗りつぶされました。奪い合いや独占を防止するためにね。つまり欧米人におけるクロスワードとは…

亜子 待った！

愛庭は本に視線を戻し、愛庭のセリフに聞き入っていた2人も自分の動作に戻る。

亜子 勝手に進めるなよ。問題解いてるの私だし。だいたいルール、変わってるし…

愛庭 ア行、5文字、探偵事務所。

裕子 これも…こっちも…

しのぶ&スジョン イライニン。

亜子 えっ？

愛庭 日本で始めて問題が掲載されたのは1925年の「サンデー毎日」3月8日号と言われています。その記念すべき「縦のカギの1」はなんと、「1.臭い屁をする動物」だったとか。3文字の…：：：そう、多分

しのぶ&スジョン 「いたち」

愛庭 でしょうね。

亜子 だから待ってて。

しのぶ カ行、7文字、岐阜から発祥、私ってキレイ？  
愛庭&スジョン 口裂け女。

スジョン サ行、5文字、深夜に見続けると魂が奪い取られる…

しのぶ&愛庭 スナアラシ。

愛庭 ダ行、8文字、同じ顔に町であつたら死んじやうよ。

スジョン&しのぶ ドッベルゲンガー。

亜子 だからルールが…

しのぶ パ行、9文字、引っ張つちやダメ。失明しちゃうよ。

愛庭&スジョン ピアスの白い糸。

スジョン ザ行、6文字、ゴミ箱漁つて振り向き一言「ほつといてくれ」

しのぶ&愛庭 ジンメンケン。

愛庭 タ行、7文字、だいたいはヒトの死体が入つてる。

スジョン&しのぶ 貯水タンク。

しのぶ ハ行、5文字、黒焦げの死体、遺伝子の保管。

愛庭&スジョン ヒットラー。

スジョン マ行、8文字、二十歳の衰弱死、最期の言葉。

しのぶ&愛庭 紫の鏡。

愛庭 ハ行、7文字、屋台の不思議な隠し味。時々手首が…

スジョン&しのぶ 人間エキス。

しのぶ ハ行、8文字、高速道路で併走してるのは…

愛庭&スジョン&亜子 百キロ婆あ。

スジョン サ行、6文字、家具の間で細々と見つめています。

しのぶ&愛庭&亜子 スキマオンナ。

愛庭 ハ行、過ぎると内蔵がミディアム・レアに…

スジョン&しのぶ&亜子 日焼けサロン。

裕子 (携帯掛けて) あ、もしもし。

亜子 えっ？

裕子 私、裕子。うん。久しぶりでゴメン。うん…ちよつととり急ぎなんだけ

どさあ、うん…ねえねえ、アンタって、前、靈感、強かったよねえ？ うん、

そう。そっかあ…でね、悪いんだけど、ちよつと来て欲しい場所があつて

ね。うん。古びた倉庫なんだけどさあ、本願寺通りを西に来て、高架をくぐ

つて2つ目の信号を左に…え？ うんそう…隣にレンガ色のマンシヨ

ンがあつて…え、何で？ アンタ…あ、もしもし？

スジョン&しのぶ 妖怪を消すのは噂話。

亜子 えっ？

愛庭 魔物を消すのは都市伝説。

亜子 お前ら…

しのぶ ザ行、7文字、ジンタイモケイ。

愛庭 カ行、8文字、首なしライダー。

スジョン マ行、9文字、マリア像の涙。

しのぶ カ行、7文字、キリストの墓。

愛庭 ア行、8文字、足からフジツボ。

スジョン カ行、7文字、ケヤキのタタリ。

愛庭 消すのは簡単。

スジョン その話には飽きれば良い。

しのぶ 次の話題に乗り換えれば良い。

亜子 やめるお。

麻衣子 …カ行、3文字、トビビ。

別空間から麻衣子。

亜子 飛び火してる、私の思考が飛び火してる。誰かの思いが伝染してる…

麻衣子 ハ行、5文字、あればあつたでそれなりに助かる。

ホケンキン。

亜子 え…麻衣子さん？

麻衣子 ア行、5文字、そろそろアンタも出てこないと。

しのぶ&愛庭 アカズノマ。

亜子 麻衣子さん。

麻衣子 カ行、4文字、アンタが気にするのもわかるけどさあ…

スジョン&しのぶ カゲグチ。

亜子 うん…

麻衣子 カ行、7文字、簡単なのよ。勇気を出してまずは一歩。

愛庭&スジョン キョウカイセン。

亜子 でも…

愛庭 サ行、6文字、悲しいお別れ。

スジョン&しのぶ …♪シャボン玉飛んだ、屋根まで飛んだ。屋根まで飛ん

で壊れて消えた。

愛庭 かねてより子供を欲しがってた作詞の野口雨情は、待望の赤子をたった

7日で死なせてしまいます。新聞記者の仕事を辞め、自暴自棄に酒浸りの日々の中、やつと書き上げたのがこの名曲と言われています。

**スジョン&しのぶ** ♪ シャボン玉消えた、飛ばずに消えた、生まれてすぐに、壊れて消えた。

**愛庭** 天まで昇れず、屋根までで消えてしまったシャボン玉。もちろん彼女の魂であります。

**麻衣子** ♪ 風、風吹くな、シャボン玉飛ばそ。

**亜子** 麻衣子さん……え、待てよ……  
クロスワードの雑誌に戻る亜子。

**亜子** ……うっしやあ、後一問だ……

不自然に大きなSE「カチャ」。鍵が開いたようににも、シャッターが切られたようにも聞こえる不思議な音（汗）。

**亜子** ……えっ？

それを機に、滑るように去る麻衣子、愛庭、しのぶ、スジョン。

**裕子** そろそろ戻してくれないかなあ？

**亜子** え？ あ、アンタ……あ、そうか、あんたカメラの……  
**裕子** おいおい……

**亜子** 悪い悪い、すっかり忘れてた……

**裕子** んじゃあま、目覚めたらよろしく。

**亜子** うん。あ、待って、もう後一問で……  
**裕子** 何？

**亜子** ヤ行4文字、縦のヒントが……  
**裕子** やみぐも。

**亜子** えっ？  
静かに消える裕子。やがて書き込む亜子。

**亜子** ……出来た……初クリアでね？ 10年越しの……

満足げに雑誌を眺め、やがて大あくび。ゆっくりと眠りにつく亜子。ゆっくりと照度を落としていく舞台。

**【SCENE/6】** やがていかにも暗転に向かったような明かりが、極めて絞った照度で止まる。亜子の顔回りだけが薄ボンヤリと……と思いや、舞台のエリアを離れた、遙かに奥の空間にシヨンポリとした道行きの明かり。その奥に一つの影。やがて倉庫としての舞台空間に少しずつ時間を掛けて近づいてくる。どうやら、かなり草臥れた様子の久保山仁である。明らかに死んでいる。それは、ヒョコヒョコした動きのほか、白装束もしくは頭の△マークなどからも判る。生前のガラガラはなく、乾いてこっけいだ。

**久保山** あのおく……

**亜子** ……ZZZ……

かなり遠くから声を掛けるが、亜子は起きる風もなく、さらに近づく久保山。ちょうど倉庫奥の無対象の壁の位置で、なぜか頭をぶつけ、ありがちな「壁のマイム」なんかをしている。

**久保山** コンコンコン（口で言う）……あのお、すいませうん。  
**亜子** ん？

亜子の覚醒に合わせ、ココで地明かりに。すなわち、久保山は「現実の世界の中に存在する不条理」となる。

**久保山** すいません。ちよつといいですか？

**亜子** ん？……あれ？（初めて振り向く）

**久保山** 入っても良いですかねえ？  
**亜子** あんた……ああ、確か以前ココにいた……

**久保山** お久しぶりでございますう。と言っても、生前は気付きもしませんでした……  
したが……

亜子 ま、そうだよ普通。

久保山 その節は失礼しました。

亜子 妙に殊勝になってんなあ…もうちよつと右。

久保山 えつとお？…

マイムの壁の手を少しずらして入ってくる久保山。

久保山 …ここかあ…よっこいしよつと…

亜子 で？ 何の用？

久保山 あ、いえ…何かココ、いよいよ取り壊す前にお別れ会があるとかつて聞きました…

亜子 招かれてないでしょ。少なくともアンタは。

久保山 ああ、やっぱそうですかねえ…あのね。

亜子 何だよ。

久保山 実は私…死んでまして。

亜子 見りや判るよ。

久保山 (何故か照れて) ああ、そうかあ…

亜子 いつ？

久保山 かれこれ3年です。どうも上手く成仏できなくて…

亜子 思ったよりマトモじゃん？

久保山 はい？

亜子 普通、大型焼却炉だったらもつとドロドロか黒こげじゃね？

久保山 ああ、いえね、それが、袴田建設の野郎、変な能力者を一人抱えてましてね。ナントカ剣持っていう…

亜子 ああ、アイツね。噂は聞いたよ。どうせつまんない予言とかしてんだろ？

久保山 や、よくは知らないんですが、アイツの別荘に行った時に、何か変なドリンク飲まされて、そのまま…

亜子 何だ、結局西山組の世話になってんじゃないん。

久保山 まあね。ヒトはそうそう変われませんかねえ。

亜子 今頃気づいてもね。

久保山 へへへ。

亜子 そもそも今ヒトじゃねえし…

久保山 ハハハ、亜子さんに言われましても…

亜子 まあね。

久保山 スジョンの奴は顔出しません？

亜子 いや。そうか、やっぱ惚れたんだ？

久保山 まさかあ。あんなのと一緒にいたら引きずられますからね。あいつは自分で自分を不幸に追い込んでいく。ブラックホール見たいな女ですよ。

亜子 でも、よく親友の話とかしてたじゃん。

久保山 アイツに友だちは居ませんよ、一人も。つてか、都合が悪くなると、いつも「友だち」が出てくるんですよ。全く架空の…「友だちから聞いた」で始まるエピソードは、概ね自分自身の話なんですわね。弟への仕送りも怪しいもんだし、お坊ちゃんに通夜の時も、何だかココソソしてたし…

亜子 ああ、あれね…

久保山 にしても…懐かしいなあ、ホント10年前のままだ。

亜子 頑張ってるよ、田口のおっちゃんも。

久保山 またまたあ、亜子さんが張ってる結界のせいでしょ？

亜子 アンタ…

久保山 袴田建設の奴らも歯がゆがってましたよ、あそこだけには手が出せないって。ああ、もちろん生前の話ですがね。

亜子 …アンタにや判らないよ。

久保山 でもあれでしょ？ ココ取り壊すって話になりや、当然和也お坊ちゃんも部屋も封印と解かれる訳でしょ？

亜子 ちゃんと処理するさ。それまでには…

久保山 はあ…でもそれ。

亜子 えっ？

久保山 解けちゃってませんか？ クロスワード。

亜子 え？…や、これは…あれ？

久保山 封印してあった奴じゃないですか？ 和也坊ちやまの遺品の…

亜子 まさか…え、いつの間に…

久保山 もしかして、今頃、開いちゃってたりして、アカズノマ。

亜子 うそ…

久保山 夢の中でも、解いちゃったんですか？ 亜子さん…

亜子 そんな馬鹿な…夢？…じゃあ…もしやアンタ…

言葉尻で背後から、何かで亜子の背中を刺している久保山。

亜子 えっ？

久保山 まだまだガキだな。

亜子 …お前。

久保山 10年間ご苦労さん。ま、心配すんなよ。ココはちゃんと有効活用させてもらうからさ。

亜子 くっそお…

久保山 ちゃんとヒントはあげてたでしょ？ 「妖怪を消すのは噂話、魔物を消すのは都市伝説」って。

亜子 じゃあ、最初から…

久保山 やっぱ効くなあ、剣持先生のグッズは…ホントそうだよね…ヒトはそうそうに変わらない。もちろんヒトでなくなってもね……っでもう聞こえてないか…

亜子の体を軽々と（！）担ぎ、集積場に放置する久保山。暫し10年前そのままの物品を懐かしそうに眺める。

久保山 スジョンはこないかなあ…。

久保山、改めて何かで、亜子の体をカモフラージュする。

久保山 どうせ見えないか……ん？ ちっ…

外からの気配を感じ離れた椅子に腰を降ろす久保山。やがて入り口から田口、愛庭、三咲が入室。

（以降、「謎解き編」（笑い）に突入する）